

保育界

2015

4



発行 日本保育協会

水辺のビオトープ

公益財団法人 日本生態系協会
教育研究センター長 田邊龍太

自然との触れ合いは、思いやる心、命やものを大切にする心を育みます。

こうした“自然の保育力”を活かすためには、園児が普段生活する範囲内に自然と触れ合う空間を設ける必要があります。ここでは園庭ビオトープの施工や管理活用のノウハウをご紹介します。



園児の集中力を育む空間となっている井上幼稚園（愛知県）の園庭／「全国学校・園庭ビオトープコンクール2013」で日本生態系協会賞を受賞（出所：冊子「自然の教育力・保育力を活かす」より）

『水辺づくりのポイント』



水辺は、園庭ビオトープの中で最もよくつくられる環境です。トンボなどの生きものを誘致しやすい、園児が生きものを見つけやすいといった特徴があります。また、季節ごとに変化する水面の表情が園児の心をやさしく刺激します。

自然豊かな水辺をつくるときのポイントは、大きく3つです。①水深に多様性をもたす。水深3～5cm程度の浅いところ、それよりも少し深いところをつくります。②水草を生やす。水草は、地域の自然に本来生える種類を生やします。株の移植、たねまきの他、秋から冬にかけて地域の湿地や田んぼからバケツ半分程度の土をもらい、水をはった池に流し込む方法があります。土の中に含まれるたねから水草が発芽します。③池の周囲にも地域の自然に本来生える草や木を生やす。トンボやカエルなどが生きていくためには水辺以外の環境も必要です。

地域ならではの水辺の景観をつくり、園児に自然の水辺の美しさを伝えていきたいものです。

■『全国学校・園庭ビオトープコンクール2015』 しめきりは5月末

情報交流を目的に始まった本コンクールは、9回目（隔年開催／18年目）を迎えます。狭くとも園児の犬のお気に入り、保護者や地域住民が熱心、園ならではの保育を実践など、自然の保育力を活かす多彩な取組の参加をお待ちしています。必要に応じて助言も行います。詳しくは、日本生態系協会のサイトをご覧ください。